

「令和2年度に実施した仕事」の振返りシート（A：裁量有）

記入日 令和 3 年 4 月 9 日

事業名称		認知症総合支援事業費（特別会計）〔認知症総合支援事業〕										
予算科目	款	4	地域支援事業費	項	3	包括的支援事業・任意事業費	目	5	認知症総合支援事業費	事業番号	1	
事業の種別	☐ 市単独 ☐ 補助対象 ☒ 市が実施することが法律等で義務付けられているもの（市の上乗せあり）											
担当部署・課長名	高齢介護 課 地域包括ケア推進 係					課長名	伊野宮 崇					
この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。								施策番号	2 - 2			
【施策名】 高齢者保健福祉の推進								総合計画書（ページ）	51			
1 この仕事の目的	① 誰（何）を対象にしていますか。 介護保険第1号被保険者及び第2号被保険者					① ①の対象数や量を、あらわすもの（対象指標） 40歳以上の市民の数 →						
	② ①をどのような状態にしたいのですか。〔簡潔に〕 認知症になっても（もしくは認知症の人が）、住み慣れた地域で安心して暮らせるようにしたい。					② ②の状態になった数・量をあらわすもの（成果指標） 認知症サポーター数 →						
	③ そのために何をしましたか。 ①認知症の人やその家族を支援する認知症地域支援推進員を配置している。 ②認知症初期集中支援チームを設置している。 ③認知症疾患医療センターとの連携をしている。 ④認知症対策推進部会において、地域の実情を踏まえながら認知症支援に関する専門的事項についての協議を行った。 ⑤認知症地域支援推進員を中心に、認知症ガイドブックを関係機関や市民等に配布をした。 ⑥認知症地域支援推進員とともに、専門職向け研修会を企画し実施した。 ⑦認知症サポーターを養成した。					③ ③をどのくらい行いましたか（活動指標） ①認知症地域支援推進員の配置数 ②認知症初期集中支援チームの対応件数 ③認知症疾患医療センターの会議等へ出席した回数（書面会議を含む） → ④認知症対策推進部会の開催回数（書面会議） ⑤認知症ガイドブックの配布数 ⑥認知症講演会・研修会の開催数 ⑦認知症サポーター養成者数（年度累計延べ人数）						
2 指標の推移			単位	過去2年間の実績		当該年度		成果目標				
				平成30年度実績	平成31年度実績	令和2年度実績		令和3年度目標		令和4年度目標		
	対象指標	①の数値	人	52,379	52,836	53,144						
	成果指標	②の数値	人	4,294	4,729	5,308						
	目 標	②の目標値	人		4,294	4,729		5,308				
目標値設定の考え方 前年度実績以上の人数を確保する。												
3 経費	活動指標		③の数値	①3 ②5 ③8 ④3 ⑤約1,000 ⑥市民向け研修会1・専門職向け研修会1 ⑦4,294人		①3 ②2 ③5 ④2 ⑤不明 ⑥市民向け研修会1・専門職向け研修会1 ⑦4,729人		①3 ②3 ③5 ④2 ⑤不明 ⑥専門職向け研修会1 ⑦5,308人				
3 経費	事業費（実績）		円	10,460,600	9,767,547	9,867,461		※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費（再任用職員以外） 年間単価は、8,380,000円 時間単価は、4,300円 で計算してください。 【算出根拠】平成31年度決算数値。（退職手当組合負担金、共済費も含む。）				
	財源	一般財源	円	2,030,363	1,935,720	2,010,034						
		特定財源（国・都・他）	円	8,430,237	7,831,827	7,857,427						
		（うち受益者負担）	円	0	0	0						
	人件費（目安）	所要人数（再任用以外）	人	0.5	0.5	0.5						
		所要人数（再任用）	人	0.0	0.0	0.0						
		職員人件費（再任用以外）	円	4,122,000	4,155,000	4,190,000						
職員人件費（再任用）		円	0	0	0							
事業費＋人件費		円	14,582,600	13,922,547	14,057,461							
4 環境変化等	（1）開始年度		18 年度									
	（2）環境の変化 これまでに、認知症地域支援推進員の配置や、専門職向けの研修会の開催、認知症ガイドブックの作成等をおし、認知症高齢者の方が住み慣れた地域で暮らし続けることが出来るような施策展開を行ってきた。他方、高齢化率の増加に伴い、今後認知症高齢者数の増加が予想されており、これまで以上に、早期発見に向けた取組を考えていく必要がある。											

事業名称	認知症総合支援事業費（特別会計）〔認知症総合支援事業〕			
担当部署・課長名	高齢介護	課	地域包括ケア推進	係 課長名 伊野宮 崇

5 市民等の意見	この仕事に関して、令和2年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について			
	・小中学生向け認知症サポーター養成講座の実施したことについて、今後も継続してほしいとの意見が寄せられた。			
6 市民協働	(1)この仕事の実施にあたり、市民協働に取り組みましたか。取り組んだ場合、取組手法欄の種類から番号を選択し、取組手法欄に番号を記載してください。（複数回答可）			
	☒ 取り組んだ	取組手法：②（認知症対策推進部会の委員として参加していただいている。）		
	☐ 取り組まない	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）		
	(2)令和3年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点 新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度は書面会議形式での実施となった。そのため、意見交換ができず十分に理解が進まなかった部分があったと感じた。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の状況にもよるが、開催方法の再検討、資料作成における工夫が必要である。			
7 課題	(1)令和2年度に課題とした内容（「平成31年度に実施した仕事」の振り返りシート7課題（3）を転記）			
	・認知症サポーターの活用を踏まえた研修内容の検討と一般向け講演会との差別化 ・小学生向け認知症サポーター養成講座の継続的な実施			
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、令和2年度に実施したこと。			
	・声かけ訓練をベースにフォローアップ研修の検討を行った。 ・小学校4校、中学校2校において認知症サポーター養成講座を実施した。			
	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）			
8	施策貢献状況（この仕事は、総合計画（基本計画）に掲げる課題の解決手段になっているか。）			
	施策名： 高齢者保健福祉の推進 ☒ なっている ☐ 環境の変化等により成果が減少している ☐ 類似の事業が他にあり改善の余地がある 事業名（ ）			
9 今後の方向性	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題及び「8 施策貢献状況」を踏まえた具体的な改革・改善案など）			
	☒ 拡大 ☐ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止			
	【取組内容】 ・新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、一般向け講演会や認知症サポーターのための交流会等の実施を検討する。 ・小中学生向け認知症サポーター養成講座は、引き続き実施していく。 ・チームオレンジの設置に向け、検討を行う。			
	(2)上記(1)の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等 ・チームオレンジについては、他市の状況等も含め情報収集が必要である。			